

令和 8 年度 第 5 回 豊田市 藤岡地域会議 議事録

開催日時	令和 8 年 8 月 2 7 日（木）	開会	閉会
		1 9 時 0 0 分	2 0 時 4 3 分
会 場	藤岡交流館 多目的ホール		
出席者	委 員 1 5 名出席（欠席：高橋委員） 藤岡支所 山田支所長、中山副支所長、成瀬担当長、内野主事 近藤市議		
次 第	1 「豊田市民の誓い」唱和 2 開会 （1）藤岡地域会議会長あいさつ （2）出席区長紹介 3 議事 藤岡地区区長会との意見交換 （1）アンケート結果の報告 （2）アンケート結果を踏まえた意見交換 4 報告 委員からの報告（各団体の活動など） 5 事務連絡		

■ 議事（要約）

第 5 回 藤岡地域会議 定例会

3 議事

藤岡地区区長会との意見交換

（1）アンケート結果の報告

吉田委員から区長会へ報告した。

【結果概要】

- 第 1 位：過疎対策（定住対策）
- 第 2 位：生活環境の充実
- 第 3 位：自然環境の保全
- 第 4 位：地域資源の活用
- 第 5 位：地域を愛する人づくり
- 第 6 位：多様な生き方の実現

上位 2 項目が突出しており、藤岡地区では課題認識が多くの自治区で共通していることが分かった。

（2）アンケート結果を踏まえた意見交換

アンケート結果上位 2 項目について意見交換した。主な意見は以下のとおり。

「過疎対策（定住対策）」について

【澤田委員の質問】

若者の流出や人口減少が課題として挙げられていますが、進学や就職、結婚など、どのタイミングで転出が多いと感じていますか。

【近藤区長の回答】

・進学時や就職時に若い世代が出て行ってしまう。藤岡地域では働けるところが限られており、地域外の就職先に就けば、その付近に引っ越してしまう。

【中根区長の回答】

・大学進学を機に地域外へ転出した若者は、利便性の高い生活に慣れてしまうことで地元へ戻らない傾向にある。そのまま就学先周辺で就職・結婚し、特に配偶者が都市部出身である場合はＵターンのハードルがさらに高くなる。また、藤岡地域では、新たな住宅がなかなか建築できないことも、減少の要因ではないか。

・大岩町では、この５０年間で世帯数に変化は見られないものの、人口数は減少している。若年層のみが外へ流出しており、高齢者のみが残っている状況。

【洲崎委員の質問】

「悪質な業者による転売や不法投棄場への転用防止」との意見がありましたが、そのような懸念を抱く背景にはどのような事情がありますか。また、地域内や近隣地域において、実際に被害や問題となった事例があるのでしょうか。

【下村区長の回答】

・１、２年前に地域内の空き病院に関し、市外の事業者から資材置き場として利用したいという話があった。このように、空き地や空き家が当事者間で勝手に売買され、知らないうちに事業者や人が流入することで、気づかないうちに転入者が増えているという事態がある。空き家情報バンク制度であれば、事前に区長等への地域面談や情報共有のプロセスがあるため把握が可能であるが、そうした手続きを経ないケースでは事前の把握が困難であり、懸念材料である。

【福岡委員の質問】

「消防署が充実していない」や「消防団員の減少」との意見がありましたが、これらの意見が挙がった背景にはどのような事情がありますか。

【阿垣区長の回答】

・初期消火もできず、消防団員も減少していることから、消防署の機能強化を望んでいる。また、消防団員の減少が進む中、消防団が今後どのような活動や役割を担っていくのか分かりにくい現状がある。

【近藤市議の発言】

・令和７年度から、豊田市消防団は操法大会に参加していない。現在は、災害時に視界不良の中、障害物を避けながらいかに救助活動を行うかという実践的な訓練に力を入れている。また、御作町自治区では、令和７年度に自治区長、民生委員、消防団員で避難行動要支援者のいる家庭を訪問し、災害時に速やかに駆け付けられる体制を整えている。どのような消防団のあり方が望ましいかについては、各自治区において主体的に検討していくことも一つの有効な手段ではないか。

「生活環境の充実」について

【田中委員の質問】

「こどもたち、高齢者の生活上の困りごとの解決支援が必要」との意見がありましたが、特にこどもたちは、日常生活の中でどのようなことに困っていると感じていますか。

【伊藤区長の回答】

・こどもが減少する中で同級生が少なく、友達となる存在が減少していることが懸念される。また、自然豊かな環境は好ましい一方で、文化や科学、技術的なものに触れる機会が都市部と比較して少ない状況にある。近年、藤岡交流館で実施されている「こどもチャレンジデー」という催しは、地域のこどもにとって非常に良い取組であると評価している。

・こどもが自然の中で工夫や想像力を養える点は、藤岡の大きな魅力である。今後は安全な遊び場がさらに充実することが望ましい。飯野ひかり幼稚園のこどもたちが自然の中で遊びまわっている姿を目にし、非常にたくましいと感じている。

・近所で、藤岡にいても十分な進学ができないという理由で転校してしまったケースもあり、地域における教育環境のさらなる充実が必要であると考えている。

【田中委員の発言】

・伊藤区長が言及したとおり、私立幼稚園では自然の中で自由に遊ばせることができる一方で、公立保育園では安全面や衛生面の配慮から、施設内の遊具等、こどもを遊ばせる範囲に制限がある。

【松田委員の質問】

交通の不便さについて、具体的にはどのような場面で不便を感じていますか。また、自宅から学校までの距離が4 km 未満のため、バスの利用が対象外となっている児童はいるのでしょうか。また、そういった声を聞くことはあるのでしょうか。

【山内区長の回答】

・御作小学校区においては、通学距離が4km を超える世帯は存在しない。小学生がバスを利用する場合、子どもに金銭を持たせることになり、それが新たなトラブルや事件につながる可能性も懸念される。

・「生活環境の充実」という項目は、交通、防災、防犯がそれぞれ独立しているのではなく、全ての側面が密接に絡み合う課題である。藤岡に留まって選択肢が限られる環境と、都市部に出て選択肢が広がる環境を比較すれば、転出者が増加することは当然の結果と言える。仮に藤岡に残った場合でも、こどもの学校送迎や日常生活において車が手放せない環境であり、運転ができない状況になれば生活が困難になる。バスの利用を促す意見もあるが、そもそもバス停までの距離があり、特に夏場など高齢者が歩いてバス停まで行くのは非常に厳しい。そのため、現状としてバスの利用者が少ないのもやむを得ない実態である。

【土谷区長の回答】

・後期高齢者にとって移動手段の確保は不可欠であり、500m の移動であっても大きな負担となっている。現在「でかけ～るふじおか」の導入に向けた話が進んで

おり、今後は各自治区がどのように支援・連携していくかが課題となる。また、今後は人口減少に伴い、登下校時に一人になる子どもが出てくることも予想されるため、バスの活用検討を含め、自治区全体でも協議を重ねていく必要がある。

【吉田委員の質問】

高齢化に対する不安を挙げられていましたが、特にどのような点に不安を感じていますか。また、今後どのような対策が必要だと思いますか。

【三宅区長の回答】

・防災体制に不安を感じており、一層の強化が必要である。御作小学校が指定避難所となっているが、川口からは4km弱あり、若い人であっても徒歩で1時間弱かかってしまう。また、一時避難所である下川口公民館についても、東海豪雨の際に避難した住民は1世帯のみにとどまっており、実際の避難が進んでいない現状がある。ハザードマップを確認すると、大きな水害が発生した際には水没する可能性のある地区に該当するため、自治区としても住民の防災意識を変えていく必要がある。あわせて、避難所の場所についても、より住民が避難しやすい位置への見直しを検討すべきである。

【山本区長の回答】

・地域における見守り体制の強化が必要である。先日、民生委員とともに避難行動要支援者がいる家庭を訪問したところ、身体が自由に動かない状態や、こどもが独立し、配偶者も亡くなり、独居老人となっている世帯があった。また、鍵や窓が十分に閉まらないなど日常生活を満足にできない家庭が増えており、金銭面に苦労している世帯も見受けられる。今後は、自治区長が中心となり、包括支援センターや民生委員などと連携しながら、地域の高齢者を見守る体制づくりが必要である。いざというときに助けあえる関係づくりが大切であり、そのためには日頃からの近所付き合い（近助）が欠かせない。例えば、現在は区費の引き落としが進んでいるものの、組長が直接集金に赴くことで、そのついでに声を掛け合うといった取り組みも重要であると考えている。

【勝上委員の発言】

・藤岡飯野自治区には「藤岡飯野自治区お助けボランティア」という組織があり、自治区内の高齢者の生活支援をしている。そういった取組を各自治区でも検討してもらえるとよいかもしれない。

【今後の開催予定】

第6回地域会議（9月24日（木）午後7時から藤岡交流館 多目的ホール）